

## 《カトリック大和高田教会 お知らせ》 2024年10月27日

典 礼 暦	日 時 など	
年間第30主日 (死者の日)	10月27日 (日) 集会祭儀	8:30
	10月31日 (木) ミサ	10:30
	11月 2日 (土) ミサ	8:00
年間第31主日	11月 3日 (日) ミサ	10:30
	11月 7日 (木) ミサ	10:30
	11月 9日 (土) ミサ	8:00

### 【京都司教区】

#### ●第二バチカン公会議を学ぶ～シノドスの歩みのために～

【ZOOM 講座】 & 【対面分かち合い】 2024年7月～2025年4月

今回は、11月15日(金)。詳細は、ホール掲示板をご覧ください。

### 【奈良ブロック】

#### ◎ウォーカーソン：11月23日(土、勤労感謝の日)

詳細はポスター、チラシをご覧ください。

今年も、参加者とスポンサーでのご協力をお願いします。

#### ◎「差別をなくす奈良県宗教者連帯会議（奈宗連）」

—40周年記念事業 ～差別をなくす平和の巡拝—

11月26日(火) 12:00 集合(JR 奈良駅前広場) → 16:00 解散

詳細は、掲示板(チラシ)をご覧ください。

#### ◎【登美ヶ丘教会からのお知らせ】

《12月1日に30回忌の命日を迎えるトニ・グリーン神父様を偲んで》

▶ 11月30日(土) 13時～、映画「愛の鉄道」上映

15時～、追悼ミサ(司式:一場神父[マリスト会])

お誘いあわせの上、是非、ご参加ください。

#### ◎フィリピン宣教会60周年記念・「2025 聖年・希望の巡礼の旅」

2025年1月22日(水)～1月27日(月)6日間

チラシをご覧の上、直接旅行社へお申し込みください。

#### ●柳本神父説教集「ともにあゆむ」B年版・C年版が発行されました。

B年版+C年版の2冊をセットで、1,000円にて頒布しています。

#### ●2024年クリスマス・チャペルコンサート合唱団の練習について

練習日:11月10日(日)、14時～ / 場所:大和八木教会

### 【大和高田教会】

#### ◎本日(10月27日)は、10時から「**オータムフェスタ**」を開催します。

みなさま、ご参加下さい。

詳細は、ポスター・チラシ・掲示板をご覧ください。

園庭への駐車が出来ません。近隣の駐車場を利用して下さい。

#### ◎「2024・待降節黙想会」：ホン・ユンハク神父様をお迎えします。

待降節を迎える心の準備として、皆様、ご参加ください

日時:12月7日(日) 10時から 講話とミサ、分かち合い

※お昼をはさみますので、軽食の準備(有料、事前申込み必要)

※詳細は、掲示板・ポスターをご覧ください。

#### ◎「京都教区時報」と「心のともしび」の11月号を個人ボックスへ

配布しましたので、お持ち帰り下さい。

(ボックスのない方は受付でお受け取り下さい)

#### ●「聖書の分かち合い」(Sr.ローマ):10月31日(木)ミサ後

#### ◆教会掃除当番

11月 3日(日) ミサ後 : 奉仕日(全員)

11月10日(日) ミサ後 : D地区

### 本日の聖歌 集会祭儀です。答唱とアレルヤ唱は歌わず、唱えます

入祭		奉納	
答唱	聖書と典礼	拝領	
アレヤ	聖書と典礼	閉祭	

【典: 典礼聖歌、聖: カトリック聖歌集、平: 平和を祈ろう】

## 10月27日 年間第30主日 マルコ10章46~52節 先生、目が見えるようになりたいのです

いよいよイエスと弟子たちはエルサレムへ向かいます。それは復活の栄光への道でしたが同時に受難への道でもありました。弟子たちは不安を胸に旅をしていたのではないのでしょうか。その途上、エリコの町での出来事です。目的地エルサレムへはあと30キロほどのところまで来ていました。

9月には耳が聞こえず、舌の回らない人がいやされる奇跡がありましたが、今日の主人公は目が見えない人です。この人は目が見えないため、働くことができないので物乞いをして暮らしていました。耳が聞こえない人は情報が入ってこない所以イエスのことを知らず、周りの人が連れて来たのですが、この人はイエスのことを耳で聞いて知っていたのでしょう。イエスがエリコに来られたと聞くと千載一遇のチャンスとばかりにイエスのもとに向かいます。人々は追い返そうとしますがイエスはこの人が叫んでいるのを聞いて、「呼んできなさい」と人々に言われました。

この人は「ダビデの子よ、わたしを憐れんでください」と叫んでいました。「ダビデの子」はイスラエル王国を再建する王、メシアの称号です。おそらく人々がそう言っているのを聞いて叫んだのでしょう。「わたしを憐れんでください」とは、「みじめなわたしを気の毒だと思って恵んでください」という意味でしょうか。彼が物乞いをするときの言葉だったかもしれません。まさか「右や左の旦那様」とは言っていなかったとは思いますが。

イエスは「何をしてほしいのか」と尋ねます。「目が見えるようになりたいのです」という答えは最大の願いだったことでしょうか。わたしはここに「自分は目が見えないからこのようさげすまされている。目が見えるようになればみんなと同じように、いや、みんなよりもいっぱい働くのに」という思いを感じます。

イエスは彼をいやし、「行きなさい」と言われますが、彼はイエスに従ったということです。「なおも道を進まれる」という表現には受難への道とともに歩んだことが示されているのかもしれませんが。

この出来事はマタイとルカの福音書にもありますが、バルティマイという名が記されているのはこのマルコのみです。十二使徒ではありませんのでプラスアルファの弟子だということですね。なお、十二人の中にバルトロマイという弟子がいますが、名前は似ていますが別人です。マッカーサーとマッカーシーみたいなものではないでしょうか。

わざわざ名前が記されているということはマルコの福音書を編集したグループにこの人のことが伝えられていたからだとも考えられます。いずれにしても、この人が初代教会において何らかの役割を果たしていた可能性があります。そうだとすると、バルティマイはイエスにいやされて教会で働くことになったのでしょう。このように、イエスは心の叫びを聞き入れ、神の国のために働けるようにしてくださるのです。 (柳本神父)